

26年4月、「国際共創学部」開設。 本物に触れる教育で共創人材を育成

成蹊大学／国際共創学部

Seikei University

ESDの理念を基に 社会変化に即した学びを提供

文系・理系の全学部が東京・吉祥寺で学ぶ成蹊大学。創立以来、少数でのフィールドワークや地域連携プロジェクトなど、「本物に触れる教育」を重視してきた。その根底にはESD（持続可能な開発のための教育）の理念に基づく実践がある。

成蹊大学では、社会に求められる人材を養成するため、時代に即した様々な教育施策を実施している。その一例として、2013年度から続く選抜制の産学連携人材育成プログラム「丸の内ビジネス研修(MBT)」がある。ビジネスの中心地である東京・丸の内内で三菱グループを中心とする企業と共に、約7カ月間かけて課題解決に取り組む。「三菱海外ビ

ジネス研修(MBT)」では、希望者が3年次の夏期休業期間中に約1週間、協力企業の海外拠点へ派遣され「グローバルマインド」を醸成し、将来的な人格形成やキャリア形成に繋がる経験を積むことができる。さらに、2026年度からは自ら行動を起こそうとする人材を育成する「成蹊アントレプレナーシッププログラム(SEP)」がスタートする。

また、全学共通の教育プログラムも充実。自身の興味・関心に沿った学修を進められる「副専攻制度」では、文理の垣根なく履修でき、17種の副専攻から選択できる。さらには、グローバル化の時代に対応し、スキル・積極性・柔軟性を備えた人材育成をめざす全学部横断型の選抜制グローバル教育プログラム「成蹊Global Study Program(GSP)」や202

6年度からスタート。こうした取り組みを通じて、多様な価値観・観点から物事を捉え、新たな価値を創出できる人材の育成に注力している。

文系・理系の枠組みを越えた 新しい学部が誕生

成蹊大学が次の100年を見据えた教育改革の環として、2026年4月、「国際共創学部」を開設する。新学部は1学科「国際共創学科」で構成され、その下に「国際日本学専攻」と「環境サステナビリティ学専攻」の2つの専攻が設定される。「文系と理系」「ローカルとグローバル」「理論と実践」の3つの複眼的思考と他者との「共創」により、持続可能な社会の実現に貢献する人材の育成をめざす。



ともに生きる
未来なら、

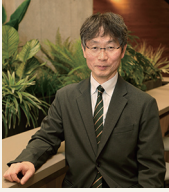
一緒につくれる
方がいい。

持続可能な社会の実現に貢献できる人材の育成をめざす成蹊大学。2026年4月、「国際共創学部」を開設するとともに、時代に即した教育プログラムを新設するなど教育改革が進む。伝統と革新が融合する学びの本質に迫る。

取材・文／福島寿恵

※2026年4月、「国際共創学部」開設。持続可能な社会の実現のために、「文系と理系」「ローカルとグローバル」「理論と実践」の複眼的思考と他者との「共創」によって、社会が抱える複雑な課題の解決に貢献できる人材の育成をめざす。

専門知識・スキルの掛け算で、持続可能な未来を「共創」しましょう。



成蹊大学
国際共創学部 学部長
藤原 均 教授

専門は地球物理学。オーロラに伴う大気変動を研究。国立極地研究所客員教授。受賞歴に日本気象学会堀内賞など。

AIの登場をはじめ、私たちを取り巻く社会情勢が大きく変化しています。あらゆる領域でボーダレス化が進み、ダイバーシティがますます尊重される現代は、一つの専門、概念だけでは解決できない問題が山積しています。このような背景の下、成蹊大学では2026年4月に「国際共創学部」を開設いたします。

「国際共創学部」の最たる特徴は文系・理系の枠を越えて学べることです。学生は興味に応じて様々な履修科目を選択することができます。関心ある分野を探究することで、自らの専門性を見出し、磨くことができます。そして、現場で体験しながら学ぶフィールドワークで主体性や協働性を養うとともに、実践的な英語力、データサイエンスなどの情報分析力を培い、分野横断的な知識と技能を修得していきます。一人ひとりの課題意識に関連づけて学ぶことができるカリキュラムを用意していますので、学ぶ意欲がある方にきていただき、共に新たな学部を創っていきたくと考えています。

最近では、GX（グリーントランスフォーメーション）など環境やサステナビリティに関わる人材へのニーズが高まっています。そうした、新しい未来を創る次世代人材をはじめ、グローバル・分野横断的な視点から、持続可能な社会を構築できる人材を育成していきたくと考えています。

Information

成蹊大学



教育者中村春二により1912年に創立された成蹊実務学校が源流。後の1925年に創設された旧制高等学校が戦後の学制改革で現在の成蹊大学となった。創立以来、「少人数制による個性尊重の人格教育」やESD（持続可能な開発のための教育）の理念につながる教育（100年の歴史を誇る気象観測をはじめ、自然現象を観察する理化教育、環境教育など）を実践。「本物に触れる教育」の伝統は、現代まで脈々と受け継がれている。

● DATA

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
TEL 0422-37-3517（成蹊学園企画室広報グループ）
URL <https://www.seikei.ac.jp/university/>

PR

国際共創学部 文理複眼の学び

いくつもの条件が絡み合い複雑化する、現代社会の課題

国際日本学
からのアプローチ

環境サステナビリティ学
からのアプローチ

文化的側面

SNS 映え写真を求めて、地域住民とのトラブルが発生。どう解決する？

世界文化遺産登録で注目され、インバウンドが急増。文化財の維持管理は大丈夫？

例えば
富士山も



科学的側面

オーパーツーリズムで富士山観光の危機!? 環境負荷や生態系をどう守る？

混雑の緩和や環境汚染など富士山に公共交通機関は必要？

富士山をはじめ現代社会の課題解決には、文系・理系の枠組みを越えた複眼思考が不可欠です。国際共創学部では、日本と世界の「文化」「地域」「環境」等における課題を理解し、物事を多角的に捉え解決を導く学びを深めます。

文理の複眼思考を養い
共創力を育む新しい学び

「国際日本学専攻」は、文化学・地域学などを基盤に、生活文化からポップ・カルチャーまで、人の営みを文化や歴史から探究し、異文化理解を深めながら世界と日本の架け橋となる人材を育成する。「環境サステナビリティ学専攻」は、地理学・環境学などを基盤に、気候変動や環境問題に加え、観光・防災など多様な社会課題に向き合い、理系的な要素も取り入れながら解決に貢献する学びを展開する。学生は各専攻で専門性を確立しつつ、専攻を横断して学ぶこともできる。同じ専攻に

所属する学生が異なる専門性を持つにつれ、将来の進路選択に活かすことができる点が大きな特色。「国際共創学部」は「文理の複眼思考」を養うことを掲げた国内では数少ない学部といえる。
また、国内外の地域でフィールドワークを実施し、現地での実体験から得られた気づきを理論と結びつける。グローバル教育も充実しており、1・2年次の教養カリキュラムではレベル別英語教育を実施。英語で学ぶ・英語を学ぶ科目は60科目以上あり、多様な言語や文化を知る科目、留学などを通じてグローバル・コミュニケーション力を養成する。さらに、Society 5.0時代の必須スキル、デ

ータサイエンスやAI技術の基盤となる科目などで、データ分析・活用能力も身につける。こうした新しい学びにより、「知識と思考力」「表現力と発信力」を身につけ、他者と協働して課題解決に取り組む力「チームワーク力と実行力」を育む。
成蹊大学は、ワンキャンパスの利点を活かした分野横断型の教育を推進してきた。新学部の開設や新設のプログラムは、現代社会の複雑な課題を多角的かつグローバルな視点から捉える力を培うものであり、これからの社会に求められる新しい学びといえる。成蹊教育は時代に即して継承・発展を続けており、今後も唯一無二の人材を育成していく。